遊学舎武雄こども園　園だより
2026 年（令和８年）　１月号

「１７８のこころ」

子どもたちの元気な声とともに、新しい年がスタートしました。本年もよろしくお願いいたします。

昨年１１月、武雄市の育ちあい講座で、武雄中学校３年生と、４・５歳児の子どもたちがふれあい遊びをしました。中学生は３歳と４歳のときに担任をしていた子どもたちで、会うのを楽しみに訪問させていただきました。

事前打合せでは「小さな子どもとふれあったことがないから緊張する。」と、不安げな表情を浮かべていた中学生。しかし当日は、緊張しながらも子どもたちと目線を合わせるために膝をついたり、とっても優しい言葉かけや動作で、子どもたちの遊びに全力で応えてくれました。中学生の手作りオモチャが壊れて、その壊れたオモチャが別の遊び方へと発展したときには、「たのしいね。」と、子どもたちの楽しい気持ちにまず寄り添ってくれる姿もありました。８年前の姿を思い浮かべながら、子どもたちの大きな成長を感じた時間でした。

武雄こども園では月に一回、汐見和恵先生と一緒に「私たちのコンパスの会」という研修を行っています。そこでは、子どもたちの姿を共有し、成長をみんなで喜び合ったり、よりよい保育を目指すためにどうしたらよいかを対話しています。コンパスの会が始まったばかりの頃、私の質問に対して、和恵先生より「大丈夫よ。」「子どもは、かならず成長します。」「ずっと同じ姿ではないですよ。」という言葉をかけていただいたことがあります。今回の中学校訪問で、その和恵先生の言葉が頭をよぎりました。

保護者様も毎日の子育てに、楽しくも悩みごとがあられるのではないかと思います。子どもたちはかならず成長します。大きくなったときの姿をワクワク想像しながら、子育てを楽しまれてくださいね。

皆様、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。新しい年を迎え、ようやく冬らしい日々がやってきました。よく言われることですが、年明けから年度末の３か月は過ぎるのが本当にあっという間。気がついたら進級や入学を迎える日がすぐそこに来ています。

この時期になると、いつも感じることがあります。それは、私たちはこの子たちに何をしてあげられたのだろう、ということ。これから先、子どもたちは多くの人々や沢山のものとの出逢い、そのなかには、自分にとって都合の良いものと、またそうでないものもある。その両者と出逢うとき、どれだけ深く物事を捉えられるか。どれだけ自分の世界の一部にできるのか。さらにそれらを織り込んで、どんな風に自分だけの物語をつくっていくのか。

年齢を重ねるごとに見えない部分が増えていき、周囲との関係も複雑になっていくことは避けられない事実。そんな事実と対峙するなかで、すぐ隣でずっと守り続けられたら、さらに欲を言えば、毎日が平穏でこの子が願う通りになってくれたら、と誰しも思うことがあるのではないでしょうか。しかし、ずっと一緒にいられないからこそ、今、私たちができること。それはどんな自分も受容されるという心からの安心と、その上にこそ成り立つ、不思議、知りたい、やってみたい、という心が動く体験の過程で育まれる豊かな想像力を１つでも多く生み出すお手伝いをすること。そうして生まれた想像力は、子どもたちの物語を綴る上で、つくり出す力やつなげる力、添う力、重ねる力に形を変えていくでしょう。

そんな力たちが今後、ここを巣立った後、不確かな世界で生きていく子どもたちにとっての「お守り」のようなものになれば。そう願いながら、卒園を迎え、最後に玄関を親子でくぐり抜けて園を去るその瞬間まで、私たちは何度も何度も、安心と想像力を生み出す日々を保障し続けたいと思います。

“想像力とはみんなと同じものを見て、誰も思いつかないことを考えること。
知識には限界があるが、想像力はあなたをどこにでも連れて行ってくれる。”
アルバート・アインシュタイン